

日中同形二字漢字語の品詞性の対応関係に関する考察¹

熊可欣²

玉岡 賀津雄³

要約: 本研究は、本特集号に掲載された朴・熊・玉岡(2014)のデータベースを用いて、日中両言語における同形二字漢字語の品詞性の対応関係について、集合論の包含関係に基づいて検討した。データベースに登録されている2,060語の二字漢字語のうち、日中両言語で同形となる語が1,509語であり、2冊の中国語の辞書における品詞の記述が一致したのは1,383語で、126語は不一致であった。これらの1,383語を対象に、両言語での品詞の相違に基づいて、5つのタイプに分けて集計した。その結果、(1)「日＝中」: 日中両言語で品詞が完全に同じである同形語の数が最も多く、1,383語のうち802語で、57.99%を占めた。(2)「日⊃中」: 両言語で同じ品詞もあるが、日本語に独自の品詞があったのは、399語で、28.85%を占めた。(3)「日≠中」: 日本語と中国語の品詞性が全く異なる同形語は79語で、5.71%であった。(4)「日⊂中」: 日中両言語において、品詞が同じ部分もあるが、中国語に独自の品詞もあったのは、67語で、4.84%であった。(5)「日∪中」: 両言語で共通する品詞性もあるが、日本語と中国語でそれぞれに独自の品詞があったのは、36語で、2.60%であった。さらに、以上の集計結果に従って、各タイプの習得の難易度を予測し、中国語を母語とする日本語学習者のために、日中同形語の品詞の学習法および習得研究への応用について提案した。

キーワード: 日中同形語 品詞性 データベース 二字漢字語 日本語教育

¹ English title: A descriptive analysis of Japanese-and-Chinese orthographically-similar two-kanji compound words according to the database of grammatical categories

² XIONG, Kexin; E-mail: xiongekexindawai@yahoo.co.jp

³ TAMAOKA, Katsuo; E-mail: ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

1. はじめに

本研究は、『ことばの科学』の本特集号に掲載された朴・熊・玉岡(2014)の日韓中の同形二字漢字語の品詞性に関するデータベースを使用し、日中両言語における同形二字漢字語の品詞の対応関係について分類し検討する。さらに、中国語を母語とする日本語学習者の同形語の習得における学習教材やカリキュラム、漢字語の処理や習得に関する研究への応用について提案する。

1.1 漢字語の研究

日本語では、漢字2つから構成される二字漢字語の語彙全体に占める割合が非常に高い。Yokosawa and Umeda (1988)は、51,962 の見出し語からなる国語辞典の内、二字漢字語の割合は、約 70%であると計算した。一方、中国語と日本語で対応があり、日中言語間で書字が共通した語(いわゆる同形語)について、陳(2002)は、『中国語と対応する漢語』(文化庁, 1978), 『日本語教育基本語彙七種対照表』(国立国語研究所, 1982), 『日本語教育のための基本語彙調査』(国立国語研究所, 1984)および『日本語能力試験出題基準』(国際交流基金, 1994)から 4,600 語を抽出して調べた結果、71.9%になるとした。さらに、菱沼(1983, 1984)は、日本語と中国語の漢字の字体の微妙な違いを無視すれば、漢字の約 98.1%は既知のものであると主張している。

このように日中両言語で漢字表記が共通するので、中国語を母語とする日本語学習者は迅速に漢字を処理できるという実験結果が報告されている(玉岡, 1994, 1997, 2000; 大和・玉岡, 2009 など)。玉岡(1997, 実験 1)は語彙性判断課題を用いて、カナダの大学に在籍し、同じカリキュラムで同じ期間日本語を学習した中国語を母語とする日本語学習者 10 人および英語を母語とする日本語学習者 17 人を対象に、日本語漢字語の処理実験を行った。その結果、中国語を母語とする日本語学習者の視覚提示から正誤判断までの反応時間(reaction time)が982ミリ秒で、正答率が71.3%であったのに対し、英語を母語とする日本語学習者の反応時間は 1,808 ミリ秒で、中国人より約 2 倍長く近くかかり、正答率も低く、63.7%しかなかった。つまり、中国語を母語とする日本語学習者のほうが英語を母語とする日本語学習者より、漢字語の処理が 826 ミリ秒速く、7.6%正確であった。日本語と中国語の漢字の高い共通性(文化庁, 2011; 陳, 2002; 菱沼, 1983, 1984)で予測された通り、視覚呈示課題での漢字語処理においては、中国語を母語とする日本語学習者は有利であることが

分かる。

さらに、玉岡(2000, 実験 1)は、オーストラリアの大学に在籍する中国語を母語とする日本語学習者 15 人および英語を母語とする日本語学習者 13 人を対象に語を視覚呈示してから発音までの命名潜時(naming latency)を測る命名課題を用いて、二字漢字語の音韻処理について実験を行っている。2つのグループの被験者は同じカリキュラムで同じ期間だけ日本語を学習している。二字漢字語を命名する際、中国語を母語とする日本語学習者(反応時間は、 $M=1,027$ ms, $SD=188$ ms; 正答率は 87.6%)のほうが、英語を母語とする日本語学習者(反応時間は、 $M=1,635$ ms, $SD=555$ ms; 正答率は 53.9%)よりも、反応時間で 608 ミリ秒短く、正答率も 33.7%だけ高かった。これにより、中国語を母語とする日本語学習者は、漢字語の書字的処理(玉岡, 1997)ばかりでなく、音韻的処理(玉岡, 2000)においても有利であることが検証された。

1.2 日中同形語のズレについての研究

1.2.1 意味に関する研究

中国語の知識を用いて、迅速かつ正確に漢字語の処理ができるとしても、意味的あるいは統語的な用法が異なる場合がある。このような条件では、中国語を母語とする日本語学習者は、むしろ誤りを起こしやすくなる傾向がみられる(陳, 2002, 2003b; 加藤, 2005; 張, 2008; 河住, 2005; 小森・玉岡・近藤, 2008; 小森・玉岡, 2010 など)。

これまで、二字漢字語の意味に焦点を置いた対照研究や誤用研究、さらに習得研究も盛んに行われてきた(文化庁, 1978; 張, 1987; 陳, 2002; 加藤, 2005; 小森・玉岡, 2010 など)。文化庁(1978)は、『外国学生用日本語教科書(初級・中級)』(早稲田大学語学研究所編), 『Modern Japanese for University Students I・II・III』(国際基督教大学編), 『標準日本語読本(I・II・III・IV・V)』(長沼直兄編), 計 10 冊の日本語教科書から 2 千語の漢語を抽出し、書字が対応する中国語を、表 1 が示したように、意味の相違に基づいて 4 種類に分類した。その結果、S 語がもっとも多く、全体の 3 分の 2 を占めていた。一方、O 語と D 語の数は少なく、合わせて 10 分の 1 にも達していなかった。さらに、張(1987)は、分類のための漢字語項目をさらに増やすために、吉林省人民出版社の 1982 年 4 月初版である『漢日辞典』および岩波書店の 1980 年の第 2 版補訂版の『広辞苑』から、日中両言語で表記が共通する 1 万 1

千語をぬきだした。そして、文化庁(1978)に従って、日本語と中国語を対照して分類⁴し、『中日漢語対比辞典』というタイトルの辞書を作成した。なお、張(1987)の目的は辞書の編纂であったため、各分類の頻度および割合は示していない。

表1. 文化庁(1978)の分類

分類	意味	割合
S(Same)	日中両国語における意味が同じが、または、極めて近いもの	2/3
O(Overlap)	日中両国語における意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれのあるもの	合わせて 1/10
D(Different)	日中両国語における意味が著しく異なるもの	
N(Nothing)	日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの	1/4

表1に示した文化庁(1978)の分類が妥当であるかと多くの研究者からの批判がある(荒川, 1979; 周, 1986; 大塚, 1990 など)。実際、張(1987)の分類と比較しても、漢字語の分類が異なっている場合も見られる。さらに、中国語であっても地域や時代によって意味が異なる場合もある。そのため、陳(2002)⁵は台湾の中国語も分類に含んで、1.1 で述べたように、和語や漢語などの語種にこだわらず、漢字二字で構成される 4,600 語を、意味の観点から、文化庁の基準に沿って「同義(S: Same)」「部分重複(O: Overlap)」「異義(D: Different)」「欠落(N: Nothing)」という4種類に分けた。その結果、日本語と中国語では、「同義」となる語がもっとも多く、55.1%も占めている。次に多かったのは「欠落」で 28.1%になる。そして「部分重複」と「異義」はそれぞれ 13.3%と 3.5%であった。さらに、「部分重複」では日本語と中国語の対応関係の在り方により、図1に示したように3つの下位分類に分かれる(三浦, 1984; 上野・魯, 1995)。第1に、中国語にない意味が日本語に含まれる同形類義語である。第2に、日本語にない意味が中国語にある同形類義語である。第3に、日中両言語で意味が重複するが、それぞれ独自の意味もある同形同義語である。

これまで述べてきた日中同形語の研究は、意味の相違に焦点を当てた分類研究である。しかし、意味の違いが、すぐに学習者の誤りを誘発するかどうかは別の問題である。言い換えると、日本語の漢字語の学習において、意味の違いが難易度の基準になるとは限らない

⁴ 張(1987)では、意味が近いが、品詞が違うことばは O 類に入れている。

⁵ 本稿は台湾の中国語を研究対象としていないため、ここでは陳(2002)の台湾についての結果を省略する。

(陳, 2003a)。そこで, 日中同形語の意味的分類による難易度についてのテストや実験の手法を使った習得研究(陳, 2003b; 加藤, 2005; 小森・玉岡・近藤, 2008; 小森・玉岡, 2010 など)から検討されなくてはならない。

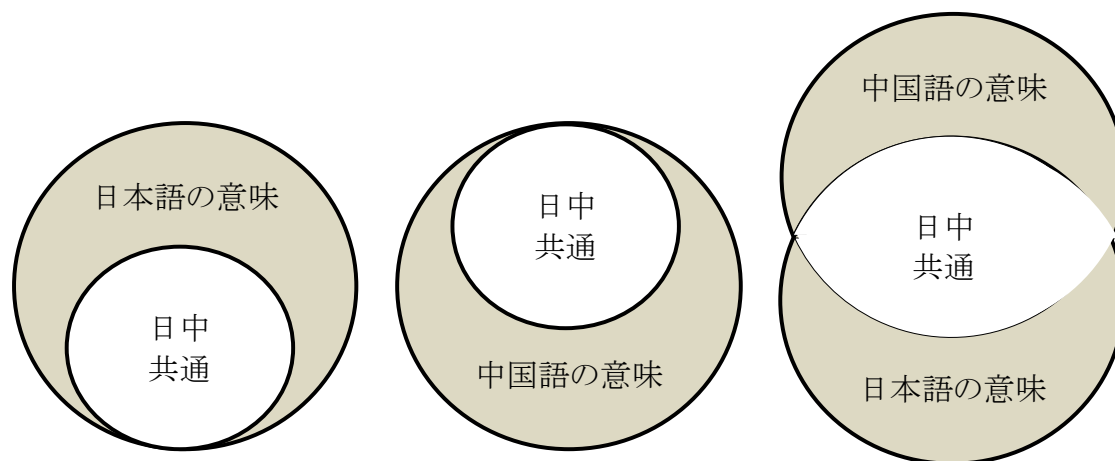


図1 日中同形類義語の下位分類

陳(2003b)は, 中国語を母語とする日本語学習者を対象に, 同形同義語(S), 類義語(O), 異義語(D)および脱落語(N)について, 日本語の漢字語の適切な翻訳を選ぶ四者択一のテストを用いての難易度を調査した。その結果, 同義語が最も得点が高く, 異義語が最も得点が低かった。また, 中国語には意味が存在しない, つまり2つの漢字の組み合わせが存在しない脱落語(N)には, 推測できる語と, そうでない語があった。類義語については, 多義性の問題から四者択一の課題では, 難易度を明確にすることは難しいことが分かった。ただし, 陳(2003b)の研究では, 異義語のテスト項目に既習と未習の語が混じっていたため, 異義語の正答率が低かったようである。陳(2003b)の研究は, 日本語能力試験の出題レベル, テスト項目の使用頻度, 学習者の日本語学習期間および語彙知識など, 調査研究のための基本的な条件を統制していないので, 難易度を示したとはいえその信憑性が疑われる。

同形語の習得における母語からの転移について研究するために, 加藤(2005)は, 単文に漢字語を入れて, 下線を引き, その漢字語が日本語として正しいかどうかを判断させた。さらに, 正しくないと判断した場合は, 訂正するよう要求した。調査項目を分類するに当たって, 文化庁(1978)の基準に沿って, 同形同義語(S), 同形類義語(O), 同形異義語(D), および欠落語(N)の4種類に分けたうえ, N語をさらに, 中国語の知識で意味の推測が困難な語

を N1, 推測しやすい語を N2 とした。また, O 語に対して, 中国語の意味範囲が広いものを「日<中」, 日本語の意味範囲が広いものを「日>中」とした。加藤(2005)は中国語母語話者, 英語母語話者を対象にして比較検討した点で興味深い。調査の結果は, S 語において使用頻度が低い語(「政府」)の場合, 中国人学習者の平均は英語母語話者より有意に高いことから, 中国人学習者は未知語を母語の L1 の知識で推測できることが示唆される。そして, N1 語について, 中国人学習者と英語母語話者の得点には差が見られなかったが, N2 語は S 語と同様に, 未知語の得点においては中国人学習者と英語母語話者の差が見られたので, 母語の L1 から正の転移が起こっていることが分かる。D 語では, 中国人学習者の平均が英語母語話者より有意に低いことから, 母語からの負の転移があると考えられる。一方, 中国人日本語学習者の上級ではほとんど負の転移が見られず, 既習語であれば難しくないと陳(2003b)の予測を支持した。O 語に対しては上級学習者も習得していない場合があり, 英語母語話者にとっても同様に難しいことが分かった。また, 加藤(2005)は, O 語は多義語であるため, L1 の語とその L2 対応語との結びつきが強固な場合, 他の用法の習得が難しくなる可能性もあると述べている。

これまで見てきたように, 中国語母語話者にとって, 日中同形同義語は習得しやすいという報告が多く見られる。しかし, それらはいくまで一つの語のレベルの習得であって, 文中で使われた場合の理解や運用ではない。たとえば, 「科学」という語は日中両言語で書字と意味において類似しており, いわゆる同形同義語である。ところが, 「科学」は日本語では名詞としてしか使われないが, 中国語では名詞だけでなく形容詞としても使える。このような品詞上の違いを認識することなく使用すると, 「科学的な方法」を「科学な方法」と表現したりして, 作文やコミュニケーションにおいて誤用を生じる可能性がある。日中同形語の文レベルでの使用においては, 意味ばかりでなく, 品詞の違いについても考慮しなければならない。

1.2.2 品詞に関する研究

現在まで, 品詞のズレに関する対照研究としては, 侯(1997), 石・王(1983), 張(2008, 2009)が良く知られている。以下に, それぞれの研究を紹介し, 問題点を指摘する。

1.2.2.1 侯(1997)の研究

侯(1997)は, 日本語学習者が日中同形語を使用する際に, 意味にばかり注意が行き, 品

詞を無視してしまう傾向があり、誤用を引き起こすことに着目した。そして、表2のように、品詞の違いに基づいて日中両言語間の同形語を8つのタイプに分類した。

表2. 侯(1997)の品詞分類

タイプ	中国語	日本語	用例
1	動詞	名詞	根拠
2	名詞	名詞・動詞	提案
3	名詞・形容詞	名詞・動詞	疲労
4	形容詞・副詞	名詞	積極
5	形容詞・副詞	動詞	緊張
6	他動詞	自動詞	干渉
7	自他両用	他動詞	発展
8	副詞	タルト形容動詞	黯然

まずタイプ1は、中国語では「動詞」であるが、日本語では「名詞」となる語である。タイプ2は、中国語では「名詞」だが、日本語では「名詞」以外に「動詞」としても使える語である。このタイプの語は、日本語で名詞として使用する場合は、意味に多少のズレがあるものの間違いはそれほど多くない。一方、動詞として使用する場合、たとえば、「近道するため、公園を通り抜ける」(侯, 1997, p.80)のように、「近道」を動詞として使うには、母語からの推測ができないため、「勇気がいる」と侯(1997)は述べている。タイプ3は、名詞としての使用は日中で共通しているが、形容詞と動詞としての使用に違いがある語である。たとえば、「疲労」のように、中国語では形容詞としての使用が多いが、日本語では動詞で主に使用される傾向がある。しかしながら、形容詞と動詞を対応させるのは飛躍があるので、学習者にとって理解しにくい語であり、誤用がしばしば生じると、侯(1997)は述べている。

タイプ4は、日本語では名詞の用法しかなく、形容動詞にするには「的」をつけなくてはならないが、中国語では形容詞と副詞としても使用できるので、日本語でもそうであろうと推測して、誤用が生じることが多い。タイプ5は、日本語では動詞であり、修飾する場合、「○○した○○」のような形をとる。しかし、学習者は「○○の(な)○○」という形をとりがちである。タイプ6とタイプ7は、動詞の自他性の対応である。タイプ8は、「漠然」など「〇然」型の同形語がこれに当たる。侯(1997)は、中国語では副詞でも、日本語ではタルト形容動詞の場合が多いと述べている。

ただし、侯(1997)は、日中同形語の品詞を基に分類しているものの、品詞判断の基準に

について明記していない。さらに、各分類についてタイプごとに日本語学習者がよく犯す誤用について説明しているが、学習者の日本語レベルについての記述も無く、作文での誤用なのか会話での誤用なのかについても明記されていない。そもそも、記載された例が、学習者の誤用例なのか、単なる筆者の作例なのかさえ明確でない。

1.2.2.2 石・王(1983)の研究

石・王(1983)は、中国人日本語学習者が中級になっても、同形語の品詞のズレによる誤用が見られることから、日中同形語の文法的なズレに焦点を当てて、母語からの干渉について検討した。日中同形語 50 語を選び、4年から7年の学習歴を持つ日本語学習者 20 人に、それぞれの語の品詞を書かせた結果、中国語からの干渉が強いことを見いだした。そこで、石・王(1983)は、中国語の小説とその和訳本から日中両言語で品詞の異なる 107 語を取り出し、表3のように7タイプに分けた。

表3. 石・王(1983)における品詞分類

タイプ	中国語	日本語	用例
1	形容詞	自動詞	緊張
2	副詞	動詞	徹底
3	形容詞・他動詞	形容詞	豊富
4	他動詞/自他両用	自動詞	発展
5	他動詞	自動詞	同情
6	動詞	名詞	打撃
7	自他動詞	自動詞	感動
	動詞	移動/経過	留学/散歩
	名詞	動詞	提案

タイプ1の運用においては、日本語の動詞を形容詞として使う傾向がある。タイプ2を使用する際には、初級学習者は「～して」を脱落させる傾向がある。タイプ7は「その他」の分類である。「留学」など同じ動詞でも、使用法が異なる場合がある。たとえば、「感動」のような語は中国語で受動態で用いられることが多いので、そのまま日本語に転用してしまうことがある。「留学」は日本語では移動動詞であるが、中国語では移動性が無いため、「彼は日本へ(に)留学した」を「彼は日本へ(に)留学しに行った」という誤りが見られると、石・王(1983)は述べている。また、日本語では「散歩」は経過を表し、「一を」を付けて「公園を散歩

する」のように使用される。しかし、中国語では「で」を付ける傾向がある。

石・王(1983)は、学習者に対するアンケート調査と多くの実例から日中同形語の品詞の違いを検討した資料として貴重である。しかし、彼らの研究には、いくつかの問題点がある。まず、石・王(1983)自身も述べているように、アンケート調査ではわずか4種類しか品詞を提示していない。また、石・王(1983)の課題は、語を見せて品詞を書かせるだけであった。しかし、品詞は、文レベルの判断である。したがって、調査対象の同形語を含む文を示して、正誤を判断させるなど、直接に品詞性の理解を要求するような課題にすべきであろう。さらに、日本語能力試験出題基準にも含まれていないような級外の同形語も調査対象とされており、未習の語彙である可能性がある。そういう語を選択すると、日本語学習者による品詞に関する判断が、母語の中国語の知識のみに限られてしまうので、日中の品詞調査とは言えなくなる。

1.2.2.3 張(2008, 2009)の研究

張(2008, 2009)の研究は、日本語能力試験出題基準に掲載された同形語を分類し、上級日本語学習者に習得の調査をした点で注目される。まず、張(2008, 2009)は、国際交流基金・財団法人日本国際教育協会編(1994)に収録されている4級から1級の語彙から日中同形語を抽出し、名詞・動詞・形容詞・副詞の4種類から表4に示したように、9タイプに分けた。さらに、張(2008)の研究では、6タイプから各3語を選び、上級日本語学習者 24 人に対して、文法性判断テストを実施した。その結果、中国語からの負の転移が最も強いのは、中国語では形容詞あるいは動詞として使えるが、日本語では名詞としてしか使えない場合であると報告している。

作文語彙⁶について検討した張(2009)では、同義語および類義語における品詞のズレに関して7つの誤用例を取り上げ、品詞性について中国語からの負の転移があると指摘した。その原因として、複雑な文法手続きより単純な文法手続きが採用されるという省エネ原理が働いている可能性がある⁶と述べている。

張(2009)も指摘しているように、品詞分類については、動詞の自他性についての日中の対応関係も考えなければならない。しかし、張(2009)の研究では、各タイプの用例が1例し

⁶ 「基盤研究 C: 中国語話者のための日本語教育文法の開発と学習者中間言語コーパスの構築」の成果の一部で、中国の K 大学に在籍している 2 年生前半の 26 名の学生がそれぞれ書いた 4 つずつ程度の短い作文、あわせて約 33,000 字である。

か挙げられていない。そのため、分析対象の同形語がいくつあるか、総データに占める各タイプの割合はどれくらいあるか、日中の品詞の判断基準は何かについて、張(2008, 2009)はまったく触れていない。また、張(2008)の習得研究でも張(2009)の誤用分析でも、分析の対象とした同形語の数は極めて少なく、たまたま特定の語を知っていた可能性があり、普遍的な傾向を示すことはできない。さらに、日本語学習者の習得状況を検討したといえども、単に「上級学習者」というだけで、日本語能力が統制されていない。そのため、日本語能力と同形語の品詞性の習得との関係が曖昧である。総じて、張(2008, 2009)の研究では、日中同形語の全体像を把握するのは難しい。

表4. 張(2008, 2009)における品詞分類

タイプ	中国語	日本語	用例
1	動詞・形容詞	形容詞	明確
2	動詞・名詞	名詞	迷信
3	形容詞・動詞・名詞	動詞・名詞	失敗
4	形容詞・名詞	名詞	消極
5	名詞	動詞・名詞	故障
6	名詞	副詞・名詞	結局
7	副詞	動詞	徹夜
8	副詞	形容詞	完全
9	副詞	名詞	共同

1.2.2.4 先行研究から見た今後の研究の展開

これまで同形語の意味および品詞に関する研究を概観した。前述したように、意味を中心に分類した研究は数多くあり(文化庁, 1978; 張, 1987; 三浦, 1984; 上野・魯, 1995; 陳 2009 など), 参考になる資料が充実している。論文や本は勿論, 同形語辞典までも出版されている。対照研究の成果に基づいて, 習得研究や実験研究も盛んに行われてきた。同形語の意味の習得についての全体像がかなり明らかになりつつある。しかしながら, 同形語の意味の研究に比べて, 品詞に関する研究は, 充実していると言い難い。そこで, 辞書に掲載されている品詞性の情報をすべて明記したデータベースを作成した(本特集号の朴・熊・玉岡, 2014 の説明とデータベースを参照)。

日中品詞性データベースの作成にあたり, 日本語習得研究を想定して, 日本語能力試験出題基準(改訂版)の4級から2級までの範囲で日中同形語を抽出した。これら 2,060 語の

同形語の使用頻度も統制できるように、1985年から1998年までの14年分の朝日新聞のコーパスにおける語彙使用頻度データ(天野・近藤, 2000)および2000年から2010年までの11年分の毎日新聞のコーパスにおける語彙の使用頻度も検索できるように、データベースに掲載した。これまでの品詞に関する研究(侯, 1997; 石・王, 1983; 張, 2008, 2009)で品詞の判断基準が疑問視されてきた。そこで、信頼性を高めるために、朴・熊・玉岡(2014)のデータベースでは、日本語の国語辞書を5冊、中国語の国語辞書2冊を調べて比較検討して、同形語に対して品詞を記録した。これにより、日中両言語における同形語の品詞性の対応関係が、総括的かつ計量的に把握できる。さらに、同形語のデータを参照することで、日中両言語の品詞性の類似・相違に関する実験刺激を選んだり、日本語学習者の習得研究のための語彙項目を見つけたりすることが容易にできるようになるはずである。

2. 日中同形語の品詞の対応についての分析

本節では、まず中国語の品詞について、日本語に該当する品詞名が見当たらない場合について、例を挙げながら説明する。次に、日中同形語を品詞によって分類する基準について述べる。そして最後に、各タイプの集計結果に基づいて考察する。

2.1 中国語の品詞

朴・熊・玉岡(2014)の品詞性のデータベースを構築する際、中国語の品詞情報については、『現代漢語辞典(第5版)』および『現代漢語規範辞典(第1版)』に掲載されている情報を用いた。2冊の辞書はともに、中国語の品詞を「名詞、動詞、形容詞、数詞、量詞⁷、代詞、副詞、介詞、連詞、助詞、嘆詞、擬声詞」の12種類に分けている。なお、本データベースに掲載した2,060語については、「助詞、嘆詞、擬声詞」に該当する項目は無かったので、9種類の品詞を記録した。

まず、日本語には該当しない中国語の品詞名としては、代詞、介詞、連詞が挙げられる。代詞とは、名詞、動詞、形容詞、数量詞、副詞の代わりに文中に用いられる語である(『現代漢語辞典(第1版)』)。劉・潘・故(1996)によると、代詞には代称と限定との2つの用法があり、代称は文中における文法的機能が名詞に相当するもので、主に人や事物の代わりに働く

⁷ 「量詞」:いわゆる日本語の「助数詞」である。

に対し、限定は形容詞に相当するもので、他と区別し限定する働きがある。例えば、データベースで 552 番の「各自 /ge4 zi4/」は代詞である。文中において名詞に相当するもので、人を指す場合が多い。例1での「各自」は仕事でトラブルを起こした人たちを指すと考えられる。

例1 工作中出了问题，不能只责怪对方，要各自多做自我批评。

代詞

訳文 仕事でトラブルが発生したら、たんに相手を責めるだけではなく、各自で反省することが必要だ。

(『現代漢語辞典』, p463; 日本語は筆者の訳文)

そして介詞は、名詞や代名詞或は一部のフレーズの前に置かれて、フレーズを構成し、動詞や形容詞を修飾するのに用いられる語である(劉・潘・故, 1996)。

例2 从北京出发经由南京到上海。

介詞 動

訳文 北京を出発して、南京経由で上海に到着する。

(『現代漢語辞典』, p719; 日本語は筆者の訳文)

例2の「经由」では、地名の「南京」が介詞フレーズを構成し、動詞である「到(到着)」を修飾している。

最後に、連詞は単語、フレーズ、句をつなぐ役割を担う。2つまたはそれ以上の単語、フレーズ、句の間に存在する何らかの関係を表す機能を持っている(劉・潘・故, 1996)。例3の「同時」であれば、連詞が2つの短い句を繋いで、並列の関係を表す。

例3 这是非常重要的任务，同时也是十分艰巨的任务。

連詞

訳文 これは非常に重要な任務であり、同時に非常に難しい任務でもある。

(『現代漢語辞典』, p1368; 日本語は筆者の訳文)

2.2 日中同形語の品詞の対応

日本語および中国語の品詞情報は朴・熊・玉岡(2014)の品詞のデータベースを使用する。データベースに含まれている二字漢字語は、『日本語能力試験出題基準』(改訂版)の4・3・2級の語彙から抽出した語である。5冊の日本語国語辞典に載せてある品詞情報を調べて記入した。さらに、中国語の辞書2冊を用いて、各二字漢字語に対応する中国語を調べ、中国語の表記、発音および品詞情報を記入した。その結果、抽出した二字漢字語は全部で2,060語であり、『日本語能力試験出題基準』(改訂版)に含まれているすべての二字漢字語の55.33%も占めている。これを全体集合(U; universal set)とする。全体集合のうち、日中同形語は1,509語である。つまり、Uに属する部分集合(subset)で、 $A \in U$ である。中国語に存在しない語はそれ以外の551語である。Uに属するAの補集合 \bar{A} (complement)であり、Uの部分集合で、 $\bar{A} \in U$ である。これらの関係は、集合論でいう包含関係で記述すると図2のベン図のようになる。

本データベースの主要な目的は、集合Aの日中で共通した同形語で1,509語について、品詞性について分類することである。品詞性の判断は、日本語の辞書5冊に掲載されている品詞情報を基にした。3冊以上の情報が一致すれば、その語の品詞であると判断した。例えば、「意味」という単語には、2冊の辞書の記述は「名詞」であるが、残りの3冊の辞書での記述は「名詞・他サ変動詞」である。そのため、「意味」の品詞は「名詞・動詞」とした。なお、「特別」という単語の記述には、5冊の辞書に載せてある情報は「名・形動」、「副・形動」、「副・形動」、「名・形動・副」、「名・形動・副」と多様である。まず、「名詞」の用法は3冊の辞書に掲載されている。「副・形動」の品詞も4冊の辞書で認められる。以上のことから、「特別」の品詞を「名・副・形動」とした。

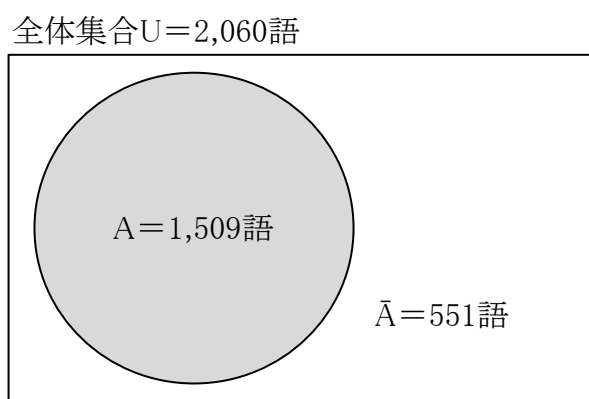


図2. 二字漢字語における同形語の統計結果

一方、中国語の辞書では、品詞が記述されていないものが多数を占める。品詞が記述されていた辞書は、わずかに2冊だけであった。さらに、これら2つの辞書でも、126語の品詞の記述が異なっていた。データベースには、両方の辞書の記述を記載した。しかし、品詞性の判断が不明であるため、以下の集計から外した。最終的に、本研究では、1,383語を対象に、日中の品詞性の対応関係を集計し、検討した。

2.3 各タイプの集計結果および考察

前述の手順で、朴・熊・玉岡(2014)の品詞のデータベースに含まれている日中同形二字漢字語 1,383語を、品詞性の対応関係によって分類した。その結果は、表5の通りである。日本語の品詞と中国語の品詞をそれぞれの同形語について1つの集合として考える。したがって、名詞、動詞、形容詞などの品詞が集合の要素(element)となる。


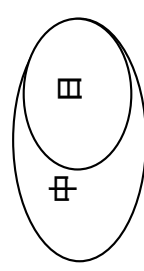
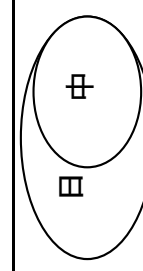
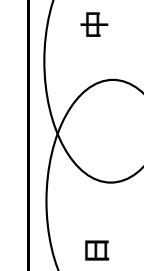

「日＝中」は、両言語で品詞が同じであることを示す。例えば、「椅子」は日中同形語である。日本語でも中国語でも名詞であるため、「椅子」についての日中品詞の包含関係が「日＝中」になる。

「日⊂中」は、日本語の品詞性が中国語の部分集合になっている。つまり、日中同形語において、品詞が同じ部分もあるが、中国語に独自の品詞があることを意味する。たとえば、「科学」という語は、中国語では名詞と形容詞との2つの品詞を持っている。しかし、日本語では名詞としてしか使わない。「科学」の品詞の包含関係は、形容詞が中国語の品詞の集合に属する1つの要素になるが(形容詞 \in 中)、日本語の品詞の要素ではない(形容詞 \notin 日)。

その逆に、「日⊃中」は、両言語で同じ品詞もあるが、日本語に独自の品詞があることを意味する。たとえば、「結論」という同形語は、日本語では名詞と動詞の両方の品詞として使える。しかし、中国語では名詞としてしか使えず、動詞は日本語の集合には含まれる(動詞 \in 日)が、中国語の集合には含まれない(動詞 \notin 中)。

「日∪中」は、両言語で一部の品詞を共有するが、同時にそれぞれ独自の品詞を持っていることを示す。「便利」は、日本語で名詞と形容詞として使用される。しかし、中国語では動詞と形容詞になる。そのため、形容詞は日本語と中国語の品詞の集合に含まれる(形容詞 \in 日∪形容詞 \in 中)。一方、名詞は日本語の集合に属しており(名詞 \in 日)、動詞としての用法は中国語の集合にしか属していない(動詞 \in 中)ことになる。

表5. 1,383語の日中同形二字漢字語の品詞の包含関係

品詞の包含関係	語数	割合	日	中	例
日 = 中 	802	57.99%	名詞 形容動詞 名詞・自動詞 など	名詞 形容詞 名詞・動詞 など	椅子 奇妙 生活
日 ⊂ 中 	67	4.84%	名詞 名詞 名詞 など	名詞・動詞 名詞・形容詞 名詞・副詞 など	感覚 科学 時刻
日 ⊃ 中 	399	28.85%	名詞・自動詞 名詞・他動詞 名詞・形容動詞 など	名詞 動詞 名詞 など	電話 掃除 傑作
日 ∪ 中 	36	2.60%	名詞・形容動詞 名詞・自他両用 名詞・形容動詞 など	名詞・動詞 動詞・形容詞 動詞・形容詞 など	上手 勉強 便利
日 ≠ 中 	79	5.71%	名詞・代詞 形容動詞 名詞 など	動詞 名詞 形容詞・副詞 など	自分 丈夫 専門

注1: 表に描かれた図は、個々の同形語について、日本語と中国語の品詞の包含関係を1つの集合として考えた結果である。したがって、名詞、動詞、形容詞などの品詞が集合の要素(element)となる。

注2: 語数は集合に属する要素の数ではなく、品詞の包含関係に属する個々の日中同形語の総数を示す。

最後に、「日≠中」は日本語と中国語の品詞性が全く異なることを意味する。「丈夫」⁸は、日本語で「丈夫なかばん」のように、形容詞として使われるが(形容詞∈日)、中国語では名詞・副詞になる(名詞・副詞∈中)。日中両言語で共通する品詞性がないため、「丈夫」の品詞の包含関係は「日≠中」になる。

表5が示したように、日中同形の二字漢字語に関する品詞性の包含関係は複雑である。日中で同形二字漢字語の品詞性にズレがない「日＝中」に属する日中同形語は、もっとも多く、802語であり、1,383語のうち、半分以上(57.99%)も占めている。これらの語は、日中両言語での品詞性の使用が同じであるため、母語知識を利用して容易に習得できると考えられる。

次に多かったのは、「日⊃中」であり、28.85%の割合で、399語がある。そのうち、日本語では名詞と動詞として使われ、中国語では動詞のみで使われる同形語が最も多く、284語があった。日本語では名詞と形容詞として使えるが、中国語では形容詞だけの同形語は44語であり、日本語では名詞と動詞として使用できるが、中国語では名詞だけでしか使えない語は35語であった。また、表5に示したように、日本語の「電話」は名詞と自動詞として使われるが、中国語では名詞でしか使えないので、このタイプに属する。中国語では、「電話する」と動詞として使用することはないので、中国語を母語とする学習者には、なかなか受け入れられないであろう。なお、母語(L1)の使用範囲が目標言語(L2)より狭い場合、最初は母語からの転移により使用に過小般化が起こるが、その後、肯定証拠のインプットにより習得できるようになると予測される(Inagaki, 2001)。ゆえに、「日⊃中」に属する語の理解が、初級段階の中国人日本語学習者にとっては難しいが、日本語能力が上がるにつれ、習得できるようになると予想される。上の例で言えば、「電話」は旧日本語能力試験の出題基準では4級に属するので、早い段階で学習する項目である。また、使用頻度が高いため、肯定証拠のインプットも多いであろう。したがって、「電話」を動詞として「電話する」と使用するの、上級学習者にとってそれほど難しくないとと思われる。ただし、このような習得の状況を明らかにするためには、学習者の日本語能力、語の日本語能力試験での配当級および使用頻度を統制して実証する必要があるだろう。

「日⊃中」および「日≠中」は 1,383語に占める割合は大差がない、それぞれ 4.84%と 5.71%である。「日⊃中」は前述した「日⊃中」と逆で、同形語の品詞性では、中国語の使用

⁸ 「丈夫」は日中両言語で書字が同じであるが、意味・品詞が異なる。なお、本研究は品詞の相違を研究目的とするので、意味の異同を考慮しない。

範囲がより大きく、独自の品詞性を持っている。このタイプにおいては、日本語では名詞、中国語では名詞と形容詞あるいは名詞と動詞という使われ方をする語が最も多く、それぞれ 29 語と 30 語であった。また、「日≠中」に属する同形語の品詞性は、日中両言語で全く異なる。日本語では名詞であるが、中国語では形容詞となる同形語が 15 語、あるいは中国語では動詞となる同形語が 27 語ある。たとえば、「参考」および「関心」は、日本語では名詞であるが、中国語では動詞である。そのため、中国語を母語とする日本語学習者は、「*参考します」や「*関心します」のような誤用がしばしば生じる(松下, 2002b)。日本語のテキストを読んだり、日本人と話したりするなかで、「参考」や「関心」の名詞としての用法は頻繁にインプットされる。そのため、名詞としての使用は習得し易いと思われる。しかし、「動詞」としての用法は日本語にはない。そのため、中国人日本語学習者が、「参考する」と動詞として使用しても、日本語教師や母語話者から指摘がない限り、動詞としての使うことが間違いであるには、気づかない。そのため、この種の誤りを修正するのは難しい。

最後に、「日∪中」は、全体の割合が最も小さい。1,383 語の内、わずかに 36 語で、2.60%しか占めていない。そのうち、日本語では名詞と動詞で使用されるが、中国語では動詞と形容詞として使われる語が 16 語もあった。「日∩中」と「日≠中」の習得プロセスと似たように、日本語の用法は大量のインプットで身に付けることができる。しかし、中国語に独自の品詞から生じた誤用は、学習者自身では気づけない。本データベースは、そのような同形語を示すことで、日本語教師や母語話者に指摘されなくても、学習者自身で理解できるようにすることができればと期待している。

3. データベースの活用

1.2 で述べたように、同形語の意味についての対照研究、習得研究、実験研究が盛んに行われてきた。しかし、同形語の品詞の日中両言語での類似と相違についての研究は、まだ着手されたばかりで、参考になる資料が少なく、応用の段階にまでは行き着いていない。『ことばの科学』の本特集号に掲載された朴・熊・玉岡(2014)の日韓中の同形二字漢字語の品詞性に関するデータベースがこれからの習得研究に応用され、日本語教育現場にも活用されるよう期待している。この節では、日本語教育、漢字語の処理および習得研究に本特集号のデータベースをどう応用するかについて可能性を探る。

3.1 日本語教育への提案

本研究では、朴・熊・玉岡(2014)のデータベースを用いて、日本語の品詞情報および日本語と対応する中国語の品詞情報を、包含関係によって5つに分類し、計量的に検討した。さらに、品詞性の包含関係を基に、中国語を母語とする日本語学習者のこれらの同形語の習得プロセスおよび難易度を予測してみた。また、学習法についても提案したい。各包含関係に属する同形語の品詞の対応、語数およびすべての実例は、補記で示した通りである。

「日〇中」は、1,383 語のうち、399 語で、28.85%を占める。特に注意を要するのは、399 語のうち、「散歩」「故障」のように、日本語では名詞と動詞の両方で使えるが、中国語では動詞のみ(284 語)あるいは名詞のみ(35 語)でしか使えない同形語である。しかも、この種の同形語は全部で 319 語もある。Inagaki(2001)によると、母語の使用範囲が目標言語より狭い場合、肯定証拠のインプットにより習得できるようになると予測する。そうであれば、このタイプに属する同形語を指導する際には、「天気がいいから、公園を散歩しましょう」や「車が故障しているので、電車で行きます」のように、意味、音韻など語レベルの知識ばかりでなく、語彙的な文法(統語)情報が含まれているテキストを学習者に与えるべきであろう。大量の文レベルのインプットにより日本語の独自の品詞用法を身に付けることができると期待される。

次に、「日≠中」に属する同形語は、1,383 語のうち、79 語で、5.71%を占める。そのうち、日本語では名詞であるが、中国語では形容詞あるいは動詞になる語は、それぞれ 15 語と 27 語ある。「日〇中」も 1,383 語のうち 67 語で、4.84%を占めており、「日≠中」とほぼ同じ数である。2.3 で述べたように、両タイプの同形語は、日本語では名詞、中国語では名詞か形容詞あるいは名詞か動詞として使用されうる語が最も多く、59 語もある。この種の同形語については、張(2008)は、中国人学習者が上級になっても、母語の中国語からの転移が見られ、そのうち、負の転移が最も強いのは、中国語では形容詞あるいは動詞として使えるが、日本語では名詞としてしか使えない場合であると報告している。名詞としての用法は両言語で共通するので、特に指導しなくても習得できるが、動詞あるいは形容詞のような中国語の独自の品詞を、そのまま日本語に転用すると誤用が生じる。このような語の習得には、目標言語である日本語のインプットだけでは不十分であり、否定証拠も必要である(White,1987)。そこで、まず、日本語と中国語の品詞情報を対照して覚えさせるのが効率的であろう。さらに、学習者の産出に誤用が観察される場合には、負のフィードバックを与えて、学習者に日本語と中国語のズレに気づかせることも重要であろう。

最後に、わずか 36 語ではあるが、「日中」に属する同形語の学習も工夫が必要である。このタイプの同形語を詳しく見ると、4級の語が3語、3級が1語、残りの 32 語がすべて2級に属し、中級レベルの語がほとんどである。一方、基本義と基本用法が日中両言語で一致する同形漢字語であれば、初級の中国人学習者であっても容易に学習できると思われる。このような語を指導については、松下(2002)は、「語彙学習をモジュール化し、特に初級後半あたりから文法学習の進捗よりも先行して習得を進めるようにする。」、そして「利用できる母語知識は早々に利用し、同時に負の転移を意識的に克服するプログラムを設けるべきである」と提案している。本研究の分類の集計結果からみると、1,383 語の同形二字漢字語のうち、「日中」は 2.60%しか占めていない。従って、これらの 36 語を日本語能力試験の級のレベルにこだわらず、文字、発音、意味、品詞と中国語と異なる部分などのすべての情報が含まれた一覧を作って、学習者に提示し、早い段階で負の転移を克服するように意識させるのが良いであろう。文字が似ているため、抵抗感もそれほど無く習得が進むのではなかろうか。

3.2 実証研究への応用

心理言語学では、人間の脳内に記憶されていると想定される単語や形態素の集合は、心内辞書(mental lexicon)と呼ばれている。一つの語や形態素には、書字、音韻、概念および語彙的統語情報、いわゆるレンマを含めて、4つの表象群が存在する(Levelt et al., 1999; 日本語の説明は、玉岡, 2013 を参照)。バイリンガル(2言語併用者)は二つの心内辞書を有していると考えられ、語彙の習得はこの心内辞書を構築すると想定すれば、母語の心内辞書の構築のほうが、目標言語より完全であり、さらに言語間の類似性が高ければ高いほど、L1から L2 へ転移しやすいと推測される。

日中同形二字漢字語には、単独で名詞となるだけでなく、動詞や形容動詞をつくる語も多い。したがって、日本語学習者は語彙の書字、音韻、意味に加えて、統語的情報も学習しなくてはならない。中国人日本語学習者は、同形二字漢字語が両言語で類似しているため、特に学習しなくても容易に習得できると勘違いしてしまい、品詞性などの文法的なズレに気づかず、誤って使ってしまうのがしばしば観察される。

従来語彙処理研究では、心内辞書について書字、音韻、意味を焦点とする実験研究は盛んに行われてきた(Dijkstra, Grainger & van Heuven, 1999; 玉岡, 1994, 1997, 2000; van Heuven, Dijkstra & Grainger, 1998)。しかし、中国語の国語辞典は品詞情報が掲載されてい

るものは、2004 年から初めて出版され、今まではわずか2冊⁹にすぎず、中国語の品詞情報の曖昧さから、日中両言語のレンマに記載された語彙的統語情報がどのような関係で構築されているかについては、ほとんど明らかにされていない。

そこで、『ことばの科学』の本特集号で、朴・熊・玉岡(2014)は、日中同形二字漢字語の表記、発音、品詞、級数、頻度など実験研究の材料として必要な情報を含んだデータベースを作成した。このデータベースを使用することで、いままで難しかったバイリンガルの統語レベルの言語処理メカニズムを解明する実験を行うことが可能になるであろう。

4. 今後の課題

日中同形二字漢字語のデータベースを作成するに当たって、以下の4つの問題が残った。

第1に、分類基準が明確ではない点である。現在出版されている中国語の辞書の内、品詞が記述されていないものが多数を占め、品詞が記述されていたのはわずか2冊であった。2つの辞書には、同じ漢語の品詞についての記述が異なる場合もあった。これらの語をどのように扱うべきかに関しては、さらなる検討が求められる。

第2に、本データベースは品詞性の対応関係に焦点を置いて作成した。そのため意味を考慮していない。同形語の意味については、1.2.1 で述べたように、日中対照研究には文化庁(1978)、張(1987)、三浦(1984)、上野・魯(1995)、陳(2009)などがあり、参考になる資料が数多く存在する。本特集号の日中同形二字漢字語のデータベースを、習得研究や実験研究、さらに教育現場での参考資料として用いる場合、これらの意味に関する研究の成果に基づいて、さらに検討する必要がある。

第3に、張(2009)も述べたように、日中同形二字漢字語の文法(統語)レベルの検討は、品詞だけでなく、動詞の自他性、受身の使用などの対応関係も考えなければならない。石・王(1983)、侯(1997)は、動詞の自他性の対応を分類に含んで検討している。しかし、対象とした総データおよび各分類に占める割合を示していないため、実態を把握することが難しい。さらに、庵(2010)は、中国人学習者を対象に非対格自動詞の習得について調査したところ、「拡大」「進行」「開通」などの語は中国語において他動詞用法が優勢であることから負

⁹ 『現代漢語辞典』(第5版, 2005年)および『現代漢語規範辞典』(第1版, 2004年)である。2010年、『規範』は第2版も出版されたが、データベースを作成する際、第1版を使用した。

の転移が生じ、「される」を使用したという可能性も否定できないと述べている。動詞の自他性の対応は、また受身の使用にまで影響を及ぼすことが窺える。日中同形語の文法的特性の習得を検討するとき、品詞だけでなく、動詞の自他性、受身使用の対応なども考慮に入れて検討すべきであろう。

最後に、本研究では、朴・熊・玉岡(2014)のデータベースを用いて、日中同形二字漢字語の品詞の対応関係を基に分類した。そして、各タイプの習得難易度を推測して学習法を提案した。ただし、こうしたデータベースを基にした言語対照による推測のみでは、同形語の習得を予想するには不十分である。たとえば、同形語の使用頻度や日本語能力試験のレベルを統制して、各タイプの習得状況を実証しなければならない。これらの問題点は、今後の課題としたい。

[参考文献]

- 荒川清秀 (1979) 「中国語と漢語—文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」『愛知大学文学論叢』61, 1-28.
- 天野成昭・近藤公久 (2000) 『NTT データベースシリーズの日本語の語彙特性 第4期』(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)東京: 三省堂.
- 庵功雄 (2010) 「中国語話者の漢語サ変動詞の習得に関わる一要因—非対格自動詞の場合を中心に」『日本語教育』146, 174-181.
- 石堅・王建康 (1983) 「日中同形語における文法的ズレ」『日本語と中国語の対照研究』5, 56-82.
- 上野恵司・魯曉琨 (1995) 『おぼえておきたい日中同形異義語 300』東京: 光生館.
- 大塚秀明 (1990) 「日中同形語について」『筑波大学外国語教育論集』12, 327-337.
- 加藤稔人 (2005) 「中国語母語話者による日本語の漢語習得—他言語話者との習得過程の違い—」『日本語教育』125, 96-105.
- 河住有希子 (2005) 「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, 53-65.
- 小森和子・玉岡賀津雄 (2010) 「中国人日本語学習者による同形類義語の認知処理」『レキシコンフォーラム』5, 165-200.
- 小森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子 (2008) 「中国語を第一言語とする日本語学習者の同

- 形語の認知処理—同形類義語と同形異義語を対象に—」『日本語科学』23, 81-94.
- 侯仁鋒 (1997) 「同形語の品詞の相違についての考察」『日本学研究』6, 78-89.
- 周錦樟 (1986) 「日中漢語対応の問題-文化庁『中国語と対応する漢語』について」『日本語日本文學』12, 69-89.
- 玉岡賀津雄 (1994) 『仮名と漢字による語彙処理のメカニズム—日本語学習者の学習歴と言語背景による影響』松山大学総合研究所.
- 玉岡賀津雄 (1997) 「中国語と英語を母語とする日本語学習者の漢字および仮名表記語彙の処理方略」『言語文化研究』17, 65-77.
- 玉岡賀津雄 (2000) 「中国語系および英語系日本語学習者の母語の表記形態が日本語の音韻処理に及ぼす影響」『読書科学』44, 83-94.
- 玉岡賀津雄 (2013) 「メンタルレキシコンと語彙処理—レフェルトの WEAVER++モデル—」『レキシコンフォーラム』6, 327-345.
- 陳毓敏 (2002) 「日本語二字漢字語彙とそれに対応する中国語二字漢字語彙は同じか。-台湾及び中国の中国語との比較」『言語文化と日本語教育』24, 40-53.
- 陳毓敏 (2003a) 「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観—意味と用法を中心—」『言語文化と日本語教育』特集号, 96-113.
- 陳毓敏 (2003b) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語習得について - 同義語・類義語・異義語・脱落語の4タイプからの検討 - 」『日本語教育学会秋季大会予稿集』174-179.
- 陳毓敏 (2009) 「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して」『日本語科学』25, 105-117.
- 張淑榮 (1987) 『中日漢語対比辞典』東京: ゆまに書房.
- 張麟声 (2008) 「中国語話者における日本語漢語語彙の習得について品詞性のずれに起因する習得の問題を中心に」Linguistics of kango (Japanese words of Chinese origin), Friday 14th and Saturday 15th March 2008, Université Paris Diderot-Paris 7.
- 張麟声 (2009) 「作文語彙に見られる母語の転移—中国語話者による漢語語彙の転移を中心に—」『日本語教育』140, 59-69.
- 菱沼透 (1983) 「日本語と中国語の常用字彙」『中国研究月報』428, 1-20.
- 菱沼透 (1984) 「中国語の標準字体と日本の常用字体」『日本語学』3, 32-40.
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』東京: 大蔵省印刷局.
- 文化庁 (2011) 『国内の日本語教育の概要』東京: 文化庁.

- 松下達彦 (2002a) 「中国語を母語とする日本語学習者のための語彙学習先行モジュールの提案—第二言語習得理論, 言語認知, 対照分析, 語彙論の成果を踏まえて—」『日語学习与研究』1(108), 50-54.
- 松下達彦 (2002b) 「初級日本語文法学習に使える中上級語彙の検討—中国語系日本語学習者のための語彙学習先行モジュール開発に向けて—」『日本文化論叢』382-393.
- 三浦昭 (1984) 「日本語から中国に入った漢語の意味と用法」『日本語教育』53, 102-112.
- 劉月華・潘文娉・故韡 (1996) 『現代中国語文法総覧』東京: くろしお出版
- 大和祐子・玉岡賀津雄 (2009) 「中国人日本語学習者の日本語漢字語の処理における母語の影響」『ことばの科学』22, 117-135.
- Dijkstra, T., Grainger, J., & van Heuven, W. J. (1999). Recognition of cognates and interlingual homographs: The neglected role of phonology. *Journal of Memory and language*, 41(4), 496-518.
- Inagaki, S. (2001). Motion verbs with goal PPs in the L2 acquisition of English and Japanese. *Studies in Second Language Acquisition* 23, 153-170.
- Levelt, W. J., Roelofs, A., & Meyer, A. S. (1999). A theory of lexical access in speech production. *Behavioral and brain sciences*, 22(1), 1-75.
- van Heuven, W. J., Dijkstra, T., & Grainger, J. (1998). Orthographic neighborhood effects in bilingual word recognition. *Journal of Memory and Language*, 39(3), 458-483.
- White, L. (1987). Markedness and second language acquisition: The question of transfer. *Studies in Second Language Acquisition* 9(3), 261-285.
- Yokosawa, K., & Umeda, M. (1988). Processes in human Kanji-word recognition. *Proceedings of the 1988 IEEE international conference on systems, man, and cybernetics* (pp. 377-380). August 8-12, 1988, Beijing and Shenyang, China.

熊可欣 - 名古屋大学国際言語文化研究科大学院生

玉岡賀津雄 - 名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授

補記: 1,383 語の日中同形二字漢字語の対応関係・品詞別一覧

対応関係	品詞(日)	品詞(中)	語数	選択した二字漢字語
日=中	名	名	714	明日, 椅子, 鉛筆, 大勢, 叔父, 伯父, 祖父, 大人, 叔母, 伯母, 祖母, 音楽, 外国, 階段, 学生, 菓子, 家族, 学校, 家庭, 花瓶, 漢字, 昨日, 今日, 教室, 兄弟, 去年, 銀行, 警官, 今朝, 玄関, 公園, 紅茶, 午後, 午前, 今年, 雑誌, 砂糖, 時間, 辞書, 醤油, 食堂, 新聞, 先生, 大学, 煙草, 地図, 茶色, 手紙, 天気, 電気, 電車, 動物, 番号, 晩飯, 病院, 文章, 帽子, 眼鏡, 問題, 野菜, 来年, 以下, 以外, 医学, 以上, 以内, 田舎, 海岸, 会場, 学部, 機会, 汽車, 技術, 季節, 教会, 興味, 空気, 空港, 警察, 景色, 郊外, 工業, 高校, 工場, 講堂, 最近, 最後, 最初, 産業, 事故, 時代, 辞典, 市民, 社会, 住所, 柔道, 主人, 趣味, 正月, 小説, 人口, 水道, 数学, 政治, 西洋, 世界, 先輩, 祖父, 祖母, 台風, 地理, 手袋, 店員, 電灯, 電報, 道具, 日記, 場合, 場所, 葡萄, 文化, 文学, 文法, 法律, 漫画, 木綿, 理由, 旅館, 歴史, 愛情, 悪魔, 足跡, 委員, 意義, 以後, 意志, 医師, 以前, 市場, 一瞬, 一生, 緯度, 衣服, 以来, 印象, 引力, 宇宙, 運河, 笑顔, 液体, 宴会, 園芸, 王子, 恩恵, 温室, 温泉, 温帯, 温度, 会員, 海外, 会館, 会計, 外交, 外部, 海洋, 画家, 価格, 化学, 家具, 学者, 学術, 角度, 学年, 学力, 火災, 火山, 家事, 果実, 歌手, 価値, 学科, 活気, 学期, 楽器, 活字, 活力, 課程, 過程, 仮名, 剃刀, 科目, 貨物, 歌謡, 環境, 元日, 患者, 感情, 感想, 寒帯, 官庁, 関東, 看板, 気圧, 議員, 気温, 器械, 議会, 期間, 企業, 器具, 期限, 気候, 記号, 生地, 技師, 儀式, 記者, 基準, 奇数, 基礎, 気体, 基地, 議長, 気味, 疑問, 教員, 境界, 教師, 漁業, 曲線, 金額, 金魚, 金庫, 金銭, 金属, 近代, 筋肉, 金融, 区域, 偶数, 口紅, 軍隊, 敬意, 契機, 形式, 経度, 外科, 毛皮, 劇場, 下旬, 血圧, 血液, 月末, 見解, 限界, 原稿, 現象, 現状, 現代, 限度, 現場, 憲法, 権利, 原理, 原料, 恋人, 効果, 公害, 光景, 工芸, 講師, 公式, 口実, 校舍, 公衆, 香水, 功績, 光線, 強盗, 工場, 後輩, 鉱物, 公務, 項目, 故郷, 国王, 国語, 国籍, 黒板, 国民, 穀物, 胡椒, 固体, 国家, 国会, 国境, 小麦, 小指, 今後, 今日, 財産, 最終, 災難, 才能, 材料, 索引, 作者, 作品, 作物, 雑音, 作家, 産地, 山林, 寺院, 四季, 時期, 資源, 事件, 磁石, 事情, 詩人, 姿勢, 時速, 子孫, 事態, 実績, 湿度, 実物, 実力, 実例, 児童, 地盤, 紙幣, 資本, 事務, 地面, 弱点, 車庫, 車道, 周囲, 宗教, 住宅, 集団, 終点, 周辺, 重量, 重力, 主義, 熟語, 主語, 首相, 手段, 首都, 主婦, 寿命, 種類, 瞬間, 蒸気, 乗客, 上級, 商業, 状況, 条件, 正午, 障子, 常識, 商社, 上旬, 少女, 小数, 状態, 商店, 焦点, 商人, 少年, 勝敗, 商品, 情報, 女王, 食塩, 職場, 食品, 植物, 食物, 食欲, 食糧, 書斎, 女子, 助手, 初旬, 書籍, 女優, 資料, 真空, 神経, 信号, 人事, 人種, 人生, 親戚, 心臓, 身体, 身長, 人命, 深夜, 親友, 心理, 森林, 人類, 神話, 水産, 水準, 随筆, 水分, 水面, 数字, 凶鑑, 凶形, 頭脳, 図表, 相撲, 性格, 世紀, 税金, 性質, 整数, 成績, 制度, 政党, 青年, 性能, 製品, 政府, 生物, 成分, 性別, 生命, 正門, 西暦, 赤道, 責任, 石油, 世間, 台詞, 全員, 選手, 全集, 全身, 扇子, 先祖, 全力, 線路, 倉庫, 葬式, 速度, 素質, 祖先, 蕎麦, 算盤, 体育, 体温, 大会, 代金, 体系, 大使, 体重, 対象, 大臣, 体制, 体積, 体操, 態度, 太陽, 大陸, 立場, 単位, 短期, 男子, 淡水, 単数, 団体, 地位, 地域, 地下, 地球, 地区, 知事, 知識, 地質, 地帯, 父親, 地点, 地方, 中央, 中学, 中間, 中古, 中旬, 中心, 中途, 中年, 長期, 調子, 頂点, 著者, 直径, 通貨, 通路, 梅雨, 程度, 弟子, 哲学, 鉄道, 伝記, 天候, 電子, 天井, 電線, 電池, 天皇, 電波, 電流, 電力, 答案, 東西, 動詞, 当日, 灯台, 灯油, 東洋, 童謡, 同僚, 道路, 童話, 都会, 特色, 特徴, 特長, 都市, 図書, 土地, 内科, 内線, 内容, 中指, 南極, 南北, 日光, 日中, 日程, 人気, 人間, 熱帯, 年間, 年月, 年中, 年代, 年度, 年齢, 農家, 農業, 農村, 濃度, 農民, 農薬, 能力, 俳句, 俳優, 博士, 梯子, 母親, 場面, 半径, 半島, 犯人, 悲劇, 美人, 筆者, 皮膚, 費用, 標本, 表面, 広場, 便箋, 風景, 夫婦, 武器, 副詞, 複数, 服装, 符号, 夫妻, 武士, 部首, 夫人, 婦人, 舞台, 物価, 物質, 物理, 部分, 父母, 文芸, 文献, 分数, 文体, 分野, 分量, 平日, 平野, 便所, 方言, 方向, 方針, 宝石, 法則, 方法, 方面, 牧場, 北極, 歩道, 盆地, 本部, 窓口, 見方, 身分, 名字, 魅力, 民間, 民謡, 名作, 名刺, 名詞, 名人, 名物, 目下, 面積, 毛布, 木材, 目次, 目的, 目標, 文字, 物事, 模様, 文句, 夜間, 薬品, 勇氣, 友情, 友人, 浴衣, 容器, 要旨, 幼児, 様子, 容積, 要素, 要点, 用途, 養分, 羊毛, 要領, 利益, 理科, 利害, 流域, 領事, 礼儀, 零点, 列車, 列島, 老人, 蠟燭, 論文, 話題, 和服, 英語, 今晚, 茶碗, 洋服, 今夜, 品物, 神社, 途中, 人形, 一方, 英文, 円周, 各地, 紙屑, 客席, 苦情, 敬語, 材木, 座席, 酸性, 湿気, 姉妹, 車輪, 絨毯, 賞金, 症状, 書店, 石炭, 全国, 短篇, 地名, 長男, 鉄橋, 日本, 両側, 街角
	形	形	6	綺麗, 曖昧, 奇妙, 嚴重, 深刻, 容易
	副	副	2	全然, 再三
	名・形	名・形	8	自由, 意外, 幸運, 幸福, 三角, 秘密, 不幸, 利口

補記のつづき (2)

対応関係	品詞(日)	品詞(中)	語数	選択した二字漢字語
日<中	名・動	名・動	70	作文,料理,練習,運動,関係,教育,経験,交通,生活,説明,暖房,翻訳,意識,演説,開始,覚悟,監督,記憶,希望,教授,記録,議論,空想,区別,警告,決心,検査,建築,貢献,構成,行動,誤解,裁判,作業,指示,支出,実験,集会,収獲,集合,手術,主張,小便,証明,消耗,請求,成人,設計,創作,想像,装置,組織,存在,代表,通知,通訳,伝言,評価,表現,評論,負担,報告,包装,保証,摩擦,要求,労働,録音,暗記,命令
	名・副	名・副	2	大体,始終
	名	名・形	29	黄色,科学,機械,規則,国際,一流,衛生,義務,空中,芸術,系統,現実,高層,古典,職業,先端,先頭,直線,典型,伝統,道德,灰色,標準,附近,文明,未来,民主,友好,理想
	名・形	名・形・副	1	可能
	名	名・動	30	入口,写真,出口,習慣,過去,感覚,間隔,行事,教養,距離,傾向,下水,構造,耕地,効力,娯楽,作法,思想,収入,出身,需要,大戦,題名,定員,定価,動作,標識,表情,用語,例外
	名・動	名・動・形	3	経済,活動,活用
	名	名・副	3	一時,時刻,次第
日<中	副	名・副	1	一旦
	形・副	形	1	悠々
	名・形	形	44	有名,安全,簡単,親切,複雑,偉大,永久,貴重,巨大,豪華,高級,公正,高等,公平,重大,重要,正直,上等,新鮮,慎重,正確,清潔,正式,率直,單純,適度,同一,透明,同様,得意,特殊,独特,莫大,卑怯,微妙,平等,不安,不利,平凡,優秀,有利,愉快,幼稚,冷静
	名・形・副	形	1	普通
	名・動・形	形	3	適當,共通,妥当
	名・形・副	形・副	2	偶然,当然
	名・動	動	284	結婚,散歩,質問,洗濯,掃除,旅行,運転,会話,競争,研究,試験,失敗,出席,出発,紹介,招待,生産,卒業,注意,中止,注射,入院,入学,発音,復習,放送,約束,輸出,輸入,利用,握手,圧縮,維持,移動,違反,依頼,印刷,引退,引用,営業,延期,演習,演奏,延長,応援,応対,横断,往復,汚染,開会,解決,会合,解散,解釈,外出,改正,解説,改善,改造,回転,解答,回復,解放,拡充,学習,拡大,拡張,確認,加減,下降,課税,加速,活用,加熱,換気,歓迎,感激,観光,観察,感謝,鑑賞,勘定,完成,観測,乾杯,看病,管理,完了,関連,起床,期待,休業,休憩,求婚,吸収,救助,休息,給与,休養,強化,競技,供給,強調,協力,許可,禁煙,禁止,区分,訓練,経営,計算,揭示,警備,激增,化粧,研修,検討,交換,合計,攻撃,交差,交際,交替,交流,合流,考慮,呼吸,克服,骨折,混合,混雑,在学,催促,作成,作曲,参加,賛成,自衛,自殺,自習,失業,実現,実行,実施,実習,執筆,失恋,指定,支配,死亡,写生,重視,就職,修正,修繕,就任,修理,終了,縮小,出勤,出場,出版,循環,使用,消化,乗車,上達,消毒,衝突,承認,蒸発,消費,省略,署名,処理,診察,診断,侵入,審判,信頼,推薦,推定,制作,製作,清掃,製造,生存,成長,生長,整理,成立,接統,絶滅,選挙,専攻,前進,宣伝,相違,増加,増減,操作,造船,増大,送別,測定,測量,損害,対照,逮捕,代理,対立,誕生,断定,担当,注目,超過,調査,調整,調節,直通,貯蔵,追加,通行,通信,通用,抵抗,停止,停車,提出,停電,展開,伝染,投書,登場,投票,等分,読書,特売,独立,登山,入場,熱中,拍手,爆発,破産,発揮,発行,発射,発車,発展,発電,発表,反抗,反省,販売,飛行,批評,普及,複写,分解,分析,分布,分類,閉会,変化,変更,防止,訪問,募集,保存,無視,免税,問答,夜行,郵送,輸血,輸送,落第,理解,離婚,留学,冷凍,連続,論争
	名・動・形	動	4	失礼,反对,膨大,満足
	名・動・形	動・形	3	安心,不足,迷惑
	名・動・形・	動・形・副	1	相当
	名・副	副	3	時々,大抵,大凡
形・副	副	1	十分	
名・形	名	8	元気,傑作,下品,現金,高価,直角,馬鹿,皮肉	

補記のつづき (3)

対応関係	品詞(日)	品詞(中)	語数	選択した二字漢字語	
	名・動	名	35	電話,遠慮,会議,原因,講義,故障,将来,戦争,貿易,用意,位置,演技,概論,学問,括弧,観念,機能,行列,工夫,契約,結論,現在,広告,工事,紅葉,婚約,差別,実感,勝負,炊事,前後,注文,提案,来日,意見	
	名・動・形	名	3	邪魔,苦勞,合同	
	名・動・副	名	1	是非	
	名・副	名	4	一体,結局,事実,全体	
	名・動・形	名・動	1	発明	
日U中	名・形	形・副	5	異常,確實,完全,純粹,非常	
	名・動	形・副	2	一致,一定	
	名・副	形・副	2	絶対,本来	
	名・動	動・介	1	通過	
	名・形	動・形	5	便利,謙虚,豊富,無数,明確	
	名・動	動・形	16	勉強,喧嘩,応用,開放,活躍,失望,集中,成功,尊敬,尊重,抽象,統一,努力,否定,附属,平均	
	名・動	動・副・介	1	比較	
	名・副	名・形	1	實際	
	名・形	名・動	1	上手	
	名・感	名・動	1	万歳	
	名・動	名・副	1	苦心	
	日≠中	副	代	1	一応
		名・動	介	1	經由
副		形	1	突然	
名		形	15	特急,一般,間接,刑事,原始,公共,高速,合理,国立,初級,初歩,人造,天然,日常,唯一	
名・動		形	8	緊張,謙遜,合格,混乱,低下,徹底,特定,優勝	
名		形・副	2	専門,臨時	
名・動		形・副	1	共同	
名・副		数	1	幾分	
名		代	3	各自,後者,前者	
名・副		代	1	多少	
名		動	27	用事,留守,欠伸,育児,演劇,遠足,関心,記事,参考,算数,自治,住居,習字,巡查,消防,頭痛,点数,犯罪,被害,美容,評判,不可,防犯,保健,満員,満点,眩暈	
名・形		動	5	丁寧,無理,架空,过剩,有効	
名・代		動	1	自分	
名		動・形	5	実用,洒落,専制,定期,不通	
名・形		副	3	本当,永遠,的確	
形		名	2	丈夫,器用	
名・副		形	1	直接	
名・副		量	1	一番	
中国語の辞書の記述が不一致		N/A	N/A	126	意味,結構,全部,何故,下手,一度,危険,地震,準備,女性,大事,男性,熱心,必要,不便,土産,安定,意思,医療,影響,援助,大家,温暖,絵画,開通,回答,過失,学会,仮定,乾燥,感動,機関,飢饉,記念,基本,急速,恐怖,強力,規律,具体,苦痛,景気,継続,結果,決定,言語,健康,建設,講演,高度,個人,困難,裁縫,左右,刺激,自身,自然,指導,主要,順序,純情,定規,上下,上品,信仰,申請,進歩,垂直,水平,睡眠,精神,整備,接近,設備,節約,選択,全般,大気,対策,大半,他人,中性,彫刻,長短,適用,徹夜,統計,当時,独身,発達,範囲,反映,判断,筆記,批判,不平,不満,平行,平和,冒険,牧畜,本人,万一,無限,矛盾,迷信,夕陽,用心,余裕,流行,人工,組合,重点,大小,同時,正面,居間,肯定,航空,候補,自信,自動,私立,相互,第一,頭痛

A descriptive analysis of Japanese-and-Chinese orthographically-similar two-kanji compound words according to the database of grammatical categories

XIONG, Kexin

Graduate Student, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan
xiongekexindawai@yahoo.co.jp

TAMAOKA, Katsuo, Ph.D.

Professor, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan
ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

Abstract: Using the database by Park, Xiong & Tamaoka published in this special issue, the present study explored corresponding features between grammatical categories of Japanese and Chinese two-kanji compound words having orthographical similarities. The database includes a total of 2,060 two-kanji compound words, of which 1,509 words are orthographically similar between Japanese and Chinese. Checking all grammatical usages found in two Chinese dictionaries, 1,383 of these 1,509 words were seen to share identical descriptions, while the definitions for 126 words were inconsistent. These 1,383 words were further divided into five types based on grammatical categories between the two languages. (1) Japanese (J)=Chinese (C) type: the same grammatical categories were found within both languages, totaling 802 (57.99%) words. (2) $J \supset C$ type: 399 (28.85%) words partially shared grammatical categories, but had additional, Japanese-specific categories. (3) $J \neq C$ type: 79 (5.71%) words showed incompatibility between the Japanese and Chinese grammatical categories. (4) $J \subset C$ type: 67 (4.84%) words partly shared the grammatical categories of both languages, but additionally had Chinese-specific grammatical classes. (5) $J \cup C$ type: 36 (2.60%) words partly shared grammatical categories of both languages, but also fit within different categories of both Japanese and Chinese. According to these five types, the present study predicted particular difficulties in acquiring these words of all five types when learning a second language, and finally, suggests potential teaching/learning approaches to better master the grammatical categories of these two-kanji compounds.

Keywords: orthographically similar words, grammatical category, two-kanji compound words, database, Japanese language education

